

釜石製鉄所全景 釜石市は鉄の都であり釜石製鉄所と、ともに発展してきた 釜石製鉄所は戦争中二度にわたり艦砲射撃をうけ全設備に其大な被害を蒙り一時機能停止したが今では第十高炉・第八高炉を基幹とする名実ともに鉄鋼一貫作業が確立し富士製鉄(株)のホープとなっている 昭和廿四年年度の生産実績は鉄鉄廿二万六千吨 鋼電十七万八千吨 鋼材五万四千吨でいづれも割当量を突破している



鉄

釜石製鉄所煉鋼炉 第十高炉は昭和廿三年五月に復旧し七百七の能力を誇っていたが昭和廿五年十月十六日第八高炉(能力六百七)の火入式が行われ同時に完成した薄板工場と、ともに釜石製鉄所の一大支柱となった



釜石製鉄所圧延工場 釜石製鉄所では倍鉄鋼のほかに焼結・精錬・電解・製鋼・圧延・薄板・洗炭・コークス炉・硫酸・硫安・軽油・ベンジン・タービン・エンジン・工作・火力発電所等の各工場が力強く稼働している

酪農のメッカ岩手県 石灰岩地帯の牧草は酪農に適している 岩手県近郊に約三千頭の乳牛がいて毎日百石の牛乳を工場に送っている 毎日新聞やサン写真新聞に報道されて今や日本の酪農のメッカとなっている



無盡蔵の石灰岩(洞泉石灰山) 岩手県には約三百億屯といわれる石灰岩がありセメントや肥料に及化学セシに将来は非常に明るい この洞泉石灰山は釜石洞泉から大釜石製鉄所に送給されている この中心に南の気仙郡 北の下閉伊一帯は連続した石灰岩が埋蔵されている (長島要之助氏撮影)

石灰岩



小野田セメント工場 気仙郡大船渡港の一角に小野田セメント大船渡工場があり月産一千万二千屯で近い将来に二千万屯にすべく拡張中である 本工場ははこり世界で始めてのバラ積み包装機「すまろ」を造りし船内自動的の秤量の上包装される近代設備であつて需要者のサービス向上を計っている



岩手の乳牛 (深沢省三画伯画く)

釜石港 三陸沿岸中央にあつて沖合漁業の中心地である 漁港・工業港・捕鯨基地として大いに利用され戦前一日五百隻も出入船があり冷凍製氷・水産加工場・造船所があり加えて釜石線全通により交通も便になり輸送も解決されている (桜田耕一氏撮影)



漁場

尾崎社祭り 尾崎社信仰は三陸海岸の人々に篤く信仰されている海の護り神様である その内でも釜石の尾崎祭りは最も盛んである 傳承では銀四郎朝の子 鳥の冠者頼朝が閉伊郡に遷れて閉伊頼基となり宮古に往し朝伊郡を領知した この人の徳を記して尾崎大明神と祀り海上安全祈願をしたのが創りと称される



わかめ 岩手県の海藻の代表的なものであつて製品としては明子・わかめといわれるのは三陸沿岸から地方に移出し向う式に加工されているためである

津軽石川のサケ 産卵のためサケは三陸沿岸の大小各河川にのぼってくる 中でも津軽石川・大槌川のサケ漁業は有名である

イカ 数では北海道・青森縣に及ばないが岩手縣産は三陸物として有名であり最も大衆的な漁業としても沿岸漁業を支配して不漁といわれるのはイカがとれないことを意味している程である

定置の大漁 最近三陸沿岸の定置漁業はイワシの不漁にみまわられているがイワシに代つてアジが時々顔を出している



カツオブシ工場 カツオの最盛期には婦人の手でカツオブシがつくれる



まぐろ漁業 まぐろ・かつお漁業はハエナワと定置に分けられるが定置漁業は三陸沿岸のリアス式海岸で定置漁業に連しているため全国的に有名であり漁業指数三九四に及んでい定置漁業は魚の回遊地を選び網を張り大回網をあげる 岩手縣で一番有名なものはお宮魚市場のまぐろ (写真は宮古魚市場のまぐろ水揚げの盛況)



宮古港の突棹船 突棹漁業は岩手縣の特産で夏期はカサキ冬期はイルカ等を獲る 突棹船は十屯から十六・七屯であつて漁物は冬期間のカサキ類は福島から千葉に夏から秋にかけては三陸沿岸に集る カサキはモリてイルカは銃で射つて勝れた技術が要求される 宮古港は一年間に三百五十五万貫の水揚げがあり漁業の中心地である (長島要之助氏撮影)

大船渡港(気仙郡大船渡町) 本港は東方に向つて開け更に北方に屈して深く湾入し内には雄略島等の小島及び赤崎村地内の尾崎岬の出入りあり景観は極めて優れている 開港は中生層の湾日66の砂岩の互層からなる山々に開けて居る東面する湾日66の岬から西方約2kmの長きで船の出入りは千向の平地あり 概ね噴砂の地質で深層の涌出が少なく向平の地質は概ね泥砂である 本港は明治の初年雷電の港に港によりその自然良港なる本港は明治の初年雷電の港に物資集散港としての飛躍的發展が期待されている



イカ 五味清吉画伯画く



カツオ釣り 生きた鰹をばらまいて竹竿と糸と針で釣り上げるカツオ釣りはいまも (桜田耕一氏撮影)

